

# 宮城のがれき150万トン超 県施設被害1兆円

宮城県の村井嘉浩知事は28日、東日本大震災で発生した県内のがれきの量が、現時点で1500万〜1800万トンに上るとの見通しを明らかにした。県内で排

出される一般廃棄物の23年分に相当するという。

内閣府の阿久津幸彦政務官は県の災害対策本部会議で、がれき処理費用のほぼ

全額を国庫負担とする方針を示した。

県は同時に、県施設などの被害額が判明分だけで1兆1500億円を超えたと発表。農業用排水機場などの農業インフラ、橋や港湾、下水処理施設、学校などの被害額が大きく、大半が津波による被害とみられる。

村井知事は同日、県が主体となって3年以内にするべしとがれきを処分するとして基本方針を表明。がれき撤去に本格的に着手する。ただ被災地にはがれきの

ほか、大量の土砂や車も放置されたままになっており、県はがれきと並行して処理方法などの検討を進める。

基本方針によると、被災地の復旧作業を迅速に進めるため、まず道路上に放置されたがれきから撤去し、28日は石巻市の県道で作業を開始。

がれきは1年以内に県内数カ所の仮置き場を集めて分別。同時に大規模な2次仮置き場を確保し、3年以内ですべてのがれきを2次仮置き場で処理する方針。